

東海北陸ブロック報告

三重大学医学部附属病院

平山 雅浩

静岡県立こども病院

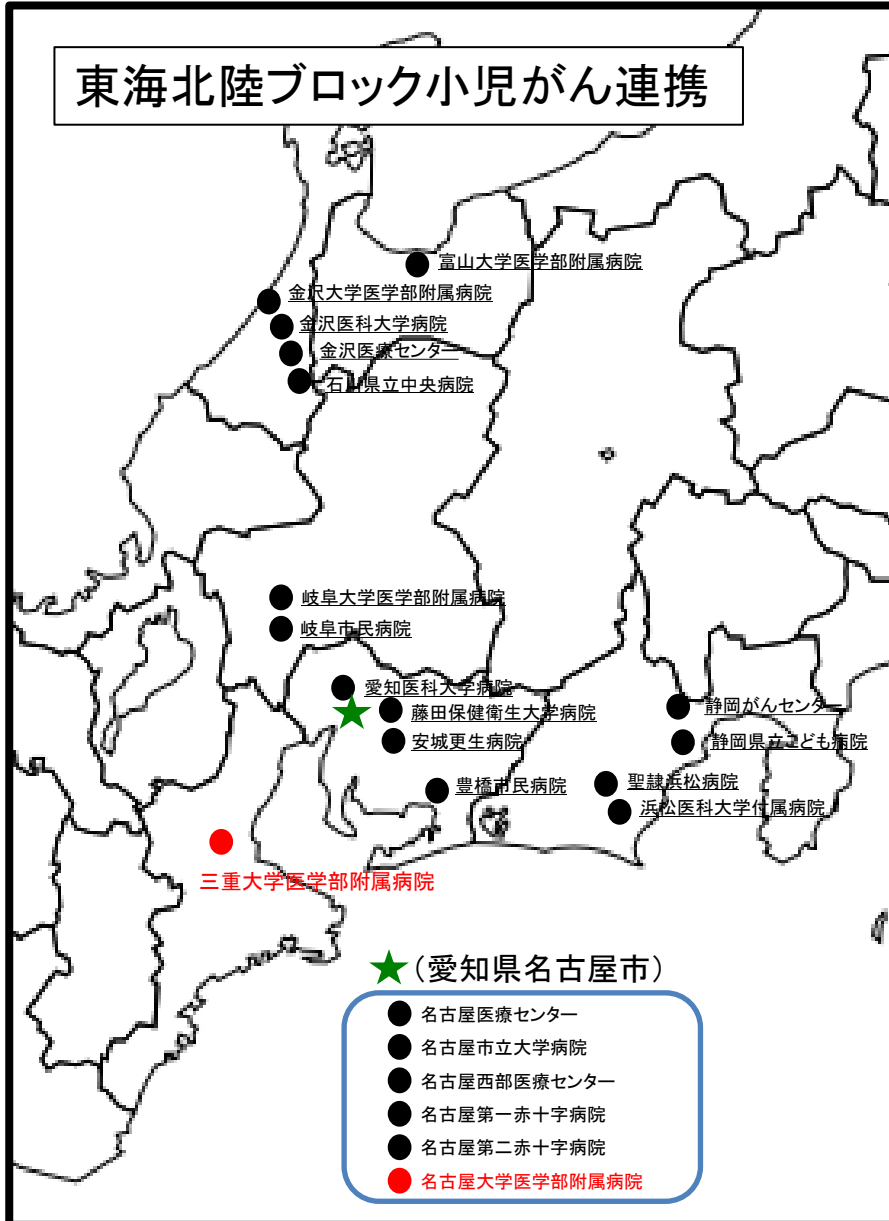
渡邊 健一郎

名古屋大学医学部附属病院

高橋 義行

昨年度の事業報告

東海北陸ブロック小児がん連携



地域診療・地域病院

愛知県

愛知医科大学病院
名古屋医療センター/
安城更生病院
豊橋市民病院

藤田保健衛生大学病院
名古屋西部医療センター/
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院

名古屋市立大学病院
名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院

小児がん拠点病院

★名古屋大学医学部附属病院

臨床研究中核拠点病院
橋渡し研究加速ネットワーク医療特区
治験・先端医療推進
ハリスカ移植/再発難治症例の受入れ

連携

連携

静岡県

浜松医科大学病院
静岡がんセンター/
静岡県立こども病院
聖隷浜松病院

石川県

金沢大学附属病院
金沢医科大学病院
金沢医療センター/
石川県立中央病院

□三重大学医学部附属病院

在宅医療推進拠点病院
緩和トータルケア推進
ハリスカ移植・再発難治症例の受入れ

岐阜県

岐阜大学医学部附属病院
岐阜市民病院

三重県

富山県

富山大学医学部附属病院

第2回東海北陸ブロック地域 小児がん医療連携体制協議会

日時:平成30年6月1日(金)

場所:名古屋大学医学部附属病院

参加者:18施設28人(拠点病院除く)

サブテーマ:長期FUとAYAがん診療体制

昨年度の事業報告

【TV会議システム 中部小児がんセミナー】

2018年9月11日 接続拠点15か所
Web症例検討会：参加者88名

2019年3月15日 接続拠点14か所
小児血液・がんセミナーin中部：参加者78名
学会専門医更新単位認定（5単位）

【中部小児がん トータルケア研究会】

2018年9月29日 長野県松本市開催
参加者 82名



【小児がん看護研修会】

2019年2月2日 第1回開催
参加者 9施設 26名



【アウトリチー型 多職種連携研修会（金沢）】

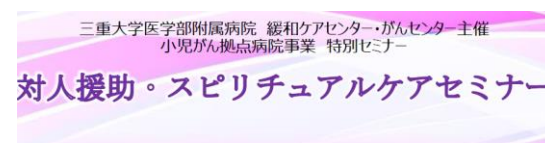
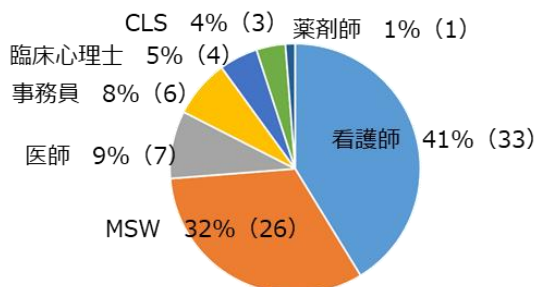
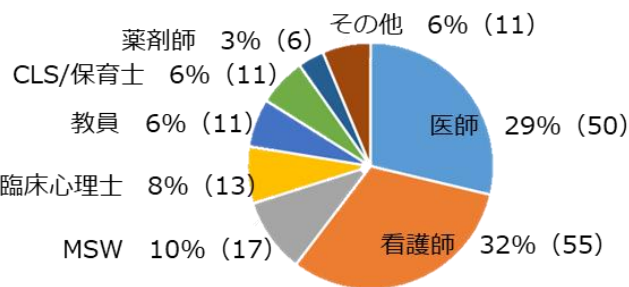
年1回計3回 延べ9施設10職種 174名
職種別内訳 %（人数）

【小児がん相談支援部会】

年1回計3回 延べ19施設7職種 80名
職種別内訳 %（人数）

【小児AYAがん緩和研修会】

2018年9月12日 第1回開催
参加者 27名



「どうして僕が？」
「もう早く終わりにしてほしい」
「治るって言ってほしい」

患者や家族が苦悩を語る時、それに向き合うとき、あなた自身つらいと感じていませんか？
スピリチュアルと名が付きますが、専門的な対人援助の会話方法を、
自分の実際の家族との会話をもとに考えるコミュニケーションセミナーです。

- 日時 平成30年9月12日（水）18：00～20：20
- 場所 三重大学医学部附属病院12階 三医会ホール
- 講師 さいたま赤十字病院 緩和ケア診療科

原 敬 先生



今年度の事業計画

■ 小児がん拠点病院と連携病院との連携構築

東海北陸ブロック地域小児がん医療連携体制協議会

日時：7月12日 場所：名古屋大学医学部附属病院

■ 小児がん・AYAがん診療と相談支援の充実

効率的Web会議システムの導入



小児がん相談支援部会及び看護研修会の継続開催

AYAがん診療及び相談支援体制の課題抽出

■ 多職種連携の推進

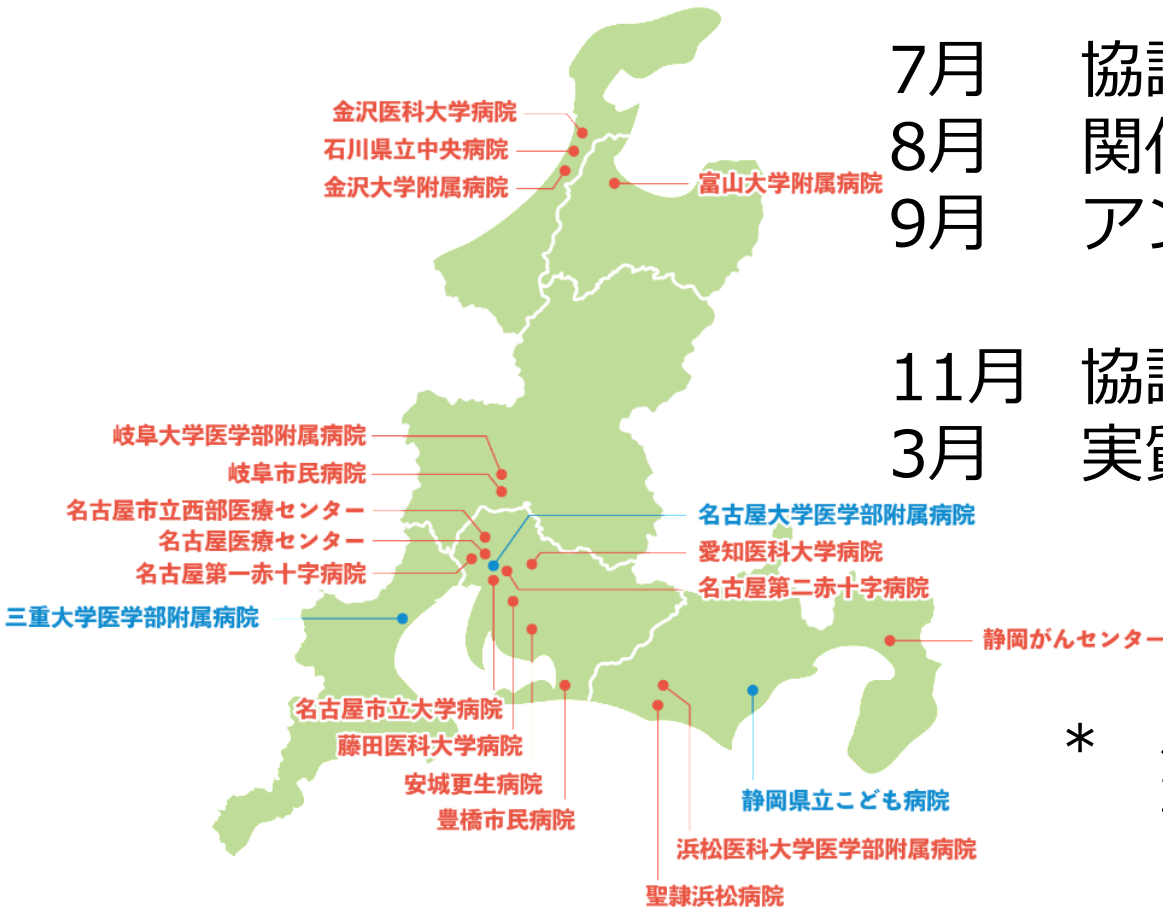
アウトリーチ型研修会、中部小児がんトータルケア研究会

■ 小児がん終末期医療体制の実態調査

連携病院指定の進捗状況

【タイムスケジュール】

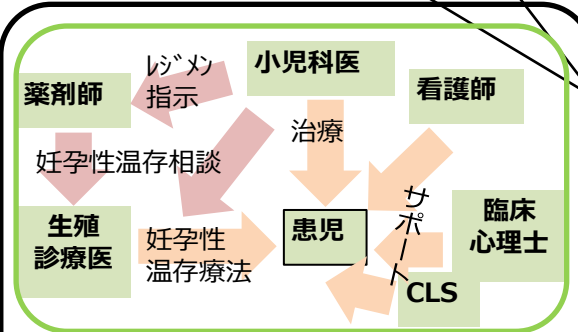
- 7月 協議会で条件項目の整理*
- 8月 関係機関へのアンケート配布
- 9月 アンケート回収後
拠点病院で検討
- 11月 協議会で指定病院を報告
- 3月 実質的連携の追跡調査



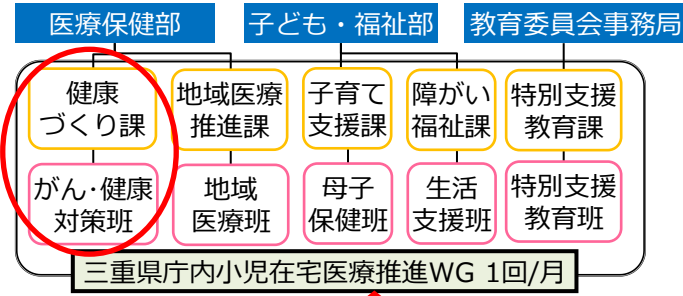
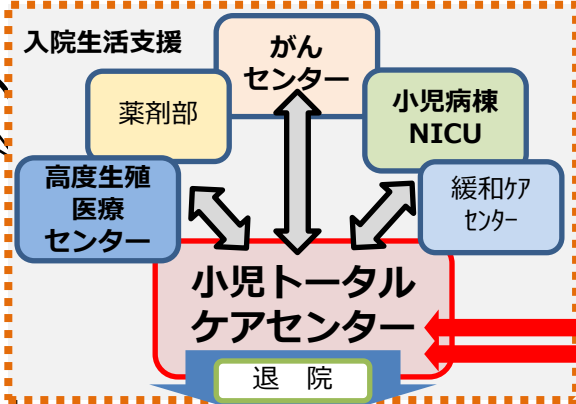
* 左図施設以外に小児がん治療
専門医療提供病院を整理

三重大学病院 事業報告

AYA世代を含む
妊孕性温存
高度生殖医療センター



多機能を有する小児トータルケアセンター
による院内外連携体制整備



協力・連携
企画・運営

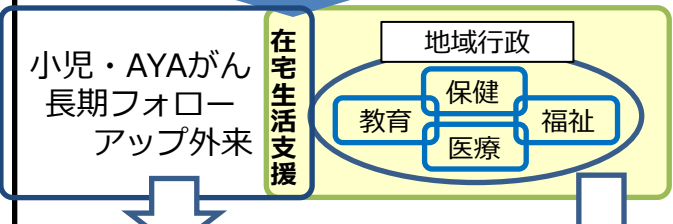
卵子凍結・卵巣凍結



- 2015年4月開設
- 2017年秋より
卵巣凍結開始

精子保存 3例
卵巣凍結保存 5例
2018年3~10月

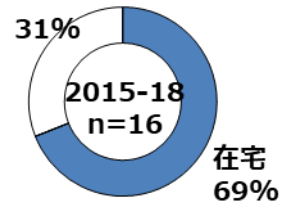
三重大初の卵巣凍結保存
がん治療後の妊娠に希望
三重大初の本邦でのがん治療後の妊孕性温存手術は、2015年4月に実施されました。当院は、がん治療後の妊孕性温存手術の第一人者として、全国的に注目を集めています。がん治療後の妊孕性温存手術は、がん治療と妊孕性温存手術を同時に実施する手術です。がん治療後の妊孕性温存手術は、がん治療後の妊孕性温存手術の第一人者として、全国的に注目を集めています。がん治療後の妊孕性温存手術は、がん治療と妊孕性温存手術を同時に実施する手術です。がん治療後の妊孕性温存手術は、がん治療後の妊孕性温存手術の第一人者として、全国的に注目を集めています。がん治療後の妊孕性温存手術は、がん治療と妊孕性温存手術を同時に実施する手術です。



東海北陸ブロック内研修



終末期在宅支援



在宅を選択する
子ども・家族が増加
↓
現在69%が在宅
(2015~2018)

三重大学病院 事業計画

東海北陸ブロック

三重大学医学部附属病院

- がんセンター**
 - └ 小児がん集学的治療
 - └ **AYAがん医療**
 - └ Tumor Board
- 緩和ケアセンター**
- 医療福祉/がん相談支援センター**
 - └ 相談支援窓口
- 高度生殖医療センター**
 - └ 妊孕性温存
- 院内学級**
- 長期療養施設**
- がんゲノム医療連携病院**
 - └ 遺伝子相談
- 臨床研究開発センター**
 - └ 認定倫理審査委員会

小児トータルケアセンター

- 医師
- 看護師
- 臨床心理士
- CLS
- MSW
- 事務

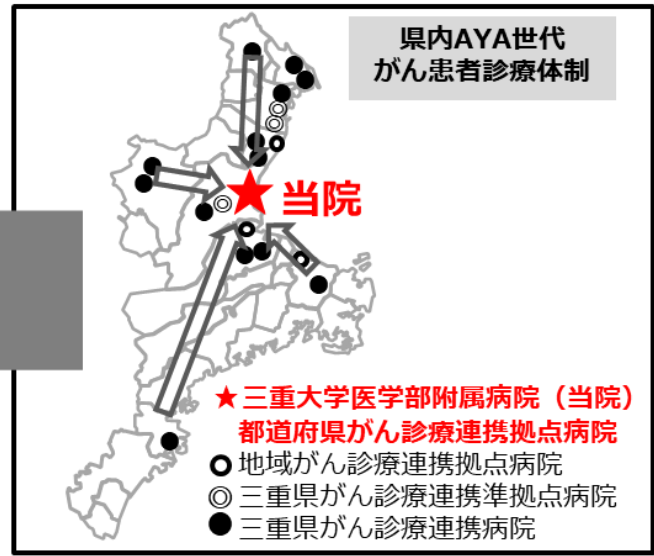
- 在宅緩和医療
- 長期FU**
- 地域人材育成

小児病棟

- 常勤医師17名
(小児科12,小児外5)
- 看護師(7:1看護)
- CLS 3名
- 保育士 1名
- 薬剤師 2名
- 臨床工学技士
- 学生ボランティア
- 事務

外来

- 集中治療室**
- 小児造血幹細胞移植チーム
- 小児がんサポート



小児がん患者と家族支援体制整備: 外来機能の充実 — 専属看護師、CLS配置
入院から外来の継続的支援の課題抽出・対策

AYAがん診療支援体制の充実: 院内チーム構築 — 課題抽出・対策
ICT教育研究事業への参加(県教育委員会との協働)

小児・AYAがんの長期FU体制の充実: ・移行期医療支援コーディネーター(仮)設置
県行政と連携し、システム化に向けた検討
・第2回三重がん・生殖医療セミナー開催

多職種支援型長期フォローアップ外来: 多職種(医師・薬剤師・MSW・看護師) **事前カンファレンス**による課題抽出・共有、当日問診票・面談・診察

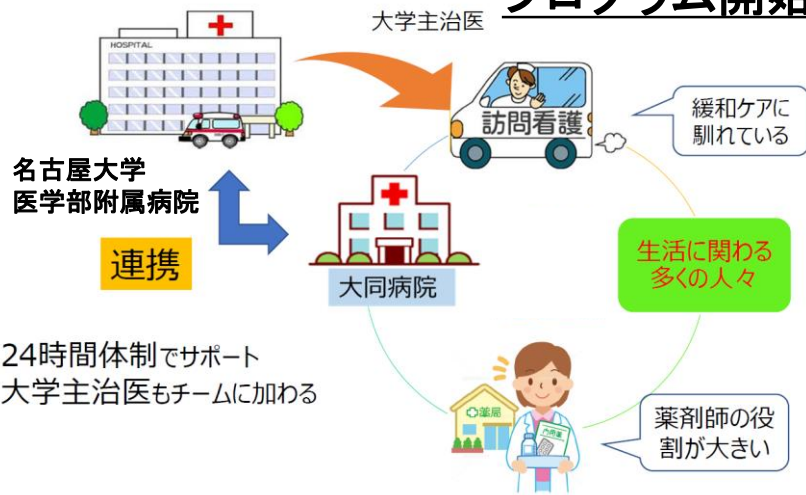
妊孕性温存の取り組み: 入院時に説明文書で説明

- ・卵子・胚凍結 卵巣組織凍結: 対象 12-45歳
- ・精子凍結: 対象 思春期以降

AYA世代支援・学習支援:

- ・学校カンファレンス: 地元学校と**入退院時、進学時**
- ・中高生への学習支援: 在籍校から**訪問教育実施**
- ・**学習支援ボランティア**サークル「パルタス」
- ・クワッサンス(**AYA世代小児がん経験者の会**)

地域病院連携小児がん在宅医療プログラム開始



北陸・東海地区の14病院から小児がんサバイバーと家族合計70名をナゴヤドームへ招待(2019.3.21.)



A newspaper clipping from the Asahi Shimbun (中日新聞) dated March 21, 2019. The headline is '安価な白血病療法 名大がタイ支援へ' (Affordable leukemia therapy, Nagoya University to support Thailand). The article discusses the development of CAR-T cell therapy for leukemia, highlighting its effectiveness and the goal of making it more affordable. It mentions that Nagoya University is collaborating with Thailand to provide this therapy. The article also notes that the therapy is currently used for certain types of leukemia and that Nagoya University is working to improve its safety and efficacy. The article is titled '最先端技術 途上国に広めたい' (Cutting-edge technology, want to spread to developing countries).

タイ白血病治療支援

CAR-T細胞療法
技術支援契約
2019年開始予定



2019.3.2.中日新聞

名古屋大学病院 事業計画

東海北陸ブロック

診療体制(長期フォローアップ外来含む):

再発・難治白血病または進行期小児固形腫瘍について、20例程度の診療を行う。また、年間30件程度の同種造血細胞移植実績を目指す。

生殖機能温存の支援を行う体制を構築し、地域ブロックで年間5例以上の精子、未受精卵子、卵巣組織、受精卵(胚)保存実績を目指す。

ブロック内医療機関による長期フォローアップへの取り組みに関する情報を公開する。成人医療機関に引き継ぐための移行プログラムを作成・実行し、年間5例程度(併診を含む)の移行実績を目指す。

人材育成:

拠点病院の特性を活用した研修(がん免疫療法や在宅医療など)を年1回開催する。

専門資格取得を目指す医師・看護師・薬剤師の研修に対する支援を行い、年間1名以上の専門資格取得を目指す。医師・看護師・薬剤師・放射線技師・社会福祉士等の人材交流を計画し、年間1名以上の研修受け入れを目指す。

TV会議システムを利用した北陸・東海地区両方の医療機関が参加する症例検討会・研究会を年間2回程度開催する。

臨床研究:

地域ブロックを中核として、臨床研究を推進する協力体制を整備し、現在予定している臨床研究を協力して行うことを目指す。

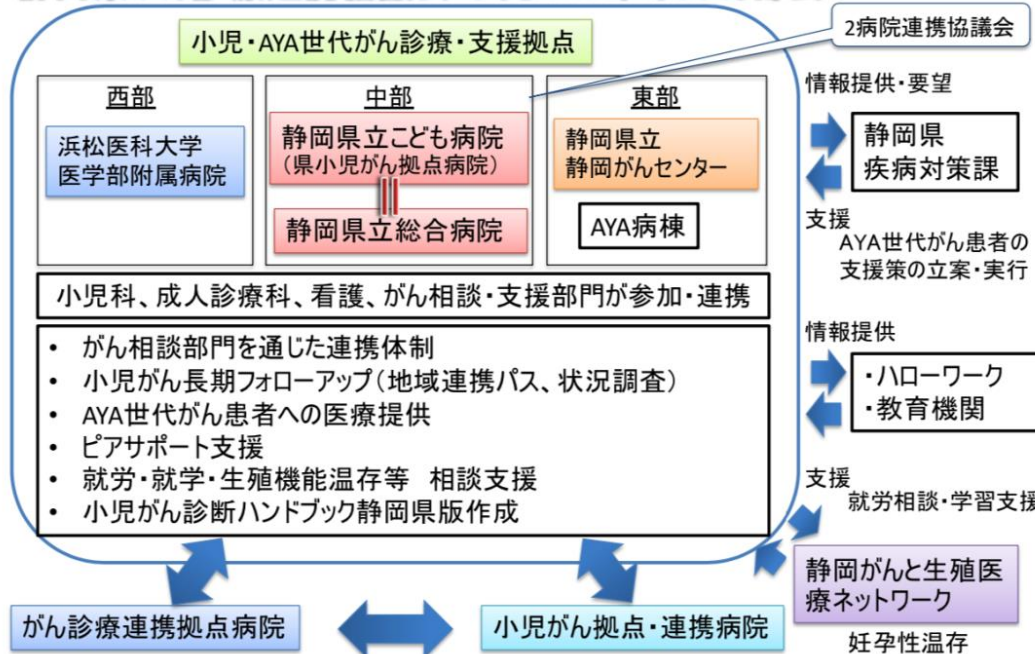
重点的に取り組んでいる課題:

医療安全対策に係る研修会を年1回以上開催することを目指す。

静岡県立こども病院事業計画

東海北陸ブロック

静岡県がん診療連携協議会 小児・AYA世代がん部会



小児がん診断 ハンドブック

東京都小児がん診療連携協議会編
静岡県がん診療連携協議会
小児・AYA世代がん部会改訂



- 小児がん相談室の拡充
 - 専従看護師の配置、新相談室の設置
 - 成人医療移行のハブ機能付与
- 長期フォローアップ体制の見直し
 - 成人医療移行実績把握
 - ネットワーク・移行方法再整備
- 生殖機能温存体制の整備
 - SOFNETとの連携
 - 情報提供方法の開発
- AYA世代がん
 - 医療者向け講演会・研修会
 - ピアサポート
- ICT利用教育支援
- 小児がん診断ハンドブック静岡県版配布
- ICT利用教育支援
- がんゲノム医療体制整備
- 東海・北陸ブロック小児脳腫瘍研究会の開催